

サニーに捧げる4つのエッセー

大地一人



目次

(ページを変える時は、⇒を押してください。
100%の倍率でお読みください)

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. <u>冷静に見ても</u> | 2 |
| 2. <u>サニーはわかっていた?</u> | 8 |
| 3. <u>サニーを愛してくれた人々</u> | 13 |
| 4. <u>サニーが教えてくれたこと</u> | 29 |

その1

冷静に見ても・・・サニーは立派な存在だった

53歳のとき、私は愛犬サニーに出会いました。

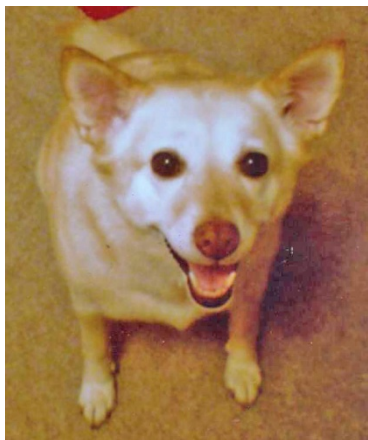
サニーが7歳のときです。

私は朝晩、彼女の散歩をしました。

その約4年の間、ずっと彼女を尊敬しつづけました。

尊敬の念は、日ごとに強くなっていました。

晩年はいつも思いました。



最低でも、彼女の労働は、

月収15万以上に相当していただろうと・・・

それくらい・・・

彼女は人々を癒すという労働を続けました。

まるでそれが・・・

自分の使命とわかっていたかのように・・・。

4

公園のベンチに、見知らぬ人が座っていると、

必ず近寄って、相手をしてあげようと思いました。

もちろん犬嫌いの人や、

「人生に負けた浮浪者の人」もいます。

そういう人は、サニーを遠ざけます。

そんなとき、サニーは悲しそうに、

その場を去るのですが、

でもたいていの人は、相手をしてくれました。

相手をしてもらうと、

彼女は本当にうれしそうに笑いました。

本当に笑うのです！

かといって、エサをもらうわけではありません

そんなこと、一度もありませんでした。

ただ彼女は人を癒すのが好きなのです。

自分もまた、頭を撫でられるのが好きなのです。

私は思います。

〇〇教の教祖様だって、

孤独な人に、

一瞬で癒しの気持ちを与えられる？

年収1億円のコメディアンだって、

打ちひしがれた病人に、

すぐに喜びを与えることができますか？

しかし彼女はそれをしたのです。

いとも簡単に・・・

5秒くらいの間に・・・

しかも相手の身なりや風体などに関わりなく・・・

実際、どれほど多くの人が、彼女によって

慰められたでしょうか？

そんなサニーを私は自慢でした。

いつも、えらいなあ・・・と思っておりました。

その2

サニーはすべてのことがわかっていた？

ある朝のこと。

散歩の途中、サニーは変な方向に行こうとします。

これまで、行ったことがないところへです。

私は彼女に任せました。

細い路地に導かれました。

そして発見！

あまりに美しい花！

私は感動し、携帯に撮りました。



あとで聞くと、この花は・・・

一年で一度か二度、朝に数時間咲くだけだとか・・・

私は驚きました。

そんな花と遭遇できるなんて、すごい！

これは偶然？それともサニーのお導き？

でも実は・・・

このようなことは、何度も経験しております。

「どうしてもある店に行きたい」というサニー・・・

行ってみると、知り合いがいた・・・

こういうことは、あまりによくありました。

インターホンや電話も、鳴る前に吠えたりしました。

8年前に少しだけ会った人や犬も覚えていた・・・

サニーは、

何でもわかっていたような気もいたします。

人間にも本来、超能力があると言われます。

現在でも霊能者などは、

テレパシー能力を持っていると言われます。

でも、ほとんどの人は、それを失っている？

しかし、それをちゃんと保持していた？サニー・・・

そんなサニーを、

私はある種、畏怖していました。

この能力・・・確かに怖い面もあります。

ですが、うまく活用できたらなあ・・・

と、現在思っております。

サニーを愛してくれた人々

①近所の明るい30歳の女性

この女性はサニーのことを子供のころから知っています。

いつも自転車に乗って通勤しているのですが、

サニーを見かけると必ず

「あ、サニーちゃんだ！」

と大きな声で呼んでくれました。

もちろんサニーも近づいていきます。

サニーはこのお姉さんが大好きでした。

女性は自転車の上から・・・あるいは自転車を下りて、サニーを撫でてくれました。

その間、私はこの女性といろいろな話をいたしました。とても明るくて、私も本当に大好きでした。

この女性は既婚者であり、この女性とサニーのことで話せないのが、とてもさびしい気がいたします。

②近所のマンションの60歳くらいの管理人さん

この男性は、管理人さんと言うより、マンションの御掃除をしている方でした。

とても孤独な感じで、マンションの人ともあまり話をなさない御様子・・・。

「どうせ、俺なんか」というような雰囲気さえ感じさせました。

でも、とても仕事熱心。

黙々と仕事をこなしておりました。

私に対しても、最初のうちは、

ほとんど無視をしていたのですが、

サニーはどんな人にも近づいていきますので、

そのうち、この男性も

心を開いてくれるようになりました。

いろいろと話をいたしました。

この男性も、家に犬を飼っているそうです。

その犬の話とか・・・マンションの話・・・

それから、一度だけ、
不用品の小さな家具をもらいました。

それは今でも私の部屋にあります。

この男性は言いました。

「一日のうちで一番、この犬と会える時が楽しいんだよ」

③65歳くらいの女性

この女性とは、いつも夕方に会いました。

サニーを見かけると、近寄ってきて、いろいろな話をしました。

その間、この女性はずっとサニーをマッサージしておられました。

25分前後になることもありました。

一度は、じっくり二人でベンチに座り、あれこれと、昔話をいたしました。

ずっとこのあたり(東京墨田区)に住んでいる方で、サニーのおかげで、

私は墨田区の昔のことを知ることができました。

本当にありがとうございます。

④70歳くらいの男性

この方も犬を飼っていました。

同じ中型の雑種でしたので、

私と親しくしておりました。

この方は、よくおっしゃいました。

「サニーちゃんは品がいいね。餌をあげても、必ず

一度匂いを嗅ぐからね」

・・・確かにその通りでした。

他の犬に餌をあげようとして、

私も何回か指を齧られたことがあります。

サニーは間違ってもそういうことはしませんでした。

必ず一度「確認作業」を行いました。

そういうことも含め、確かにサニーは、とても品性の高い性格だったと言えます。

たとえば・・・

折りたたんだ毛布を与えると、

きれいに長方形に広がります。

そうして初めて、その上に寝転がるのでした。

そういうところは、生来のものなのでしょうか？

私には持ち合わせておりませんので、

いつも感心をしておりました。

少なくとも、

私よりは品のいいサニーでした。

⑤ 65歳くらいの男性

この方は、小泉元首相にソックリの人。

最初ベンチに座っていらしたので、

「小泉さんに似ていますね」

と声を掛けてから、交流が始まりました。

私とはなぜか馬が合いました。

さまざまな話をし・・・

でも犬のことにはあまり関心がない御様子で、
ときどき、サニーの頭を撫でるくらいでした。

ところが、何度も会っているうちに、積極的にサニーを撫で始めました。

ある日言いました。

「俺、本当は昔から犬嫌いなんだよ・・・でも、サニーのおかげで、好きになったよ」
・・・サニーはそういう犬でした。

⑥東あずま公園の4人組の主婦・・・

週に1〜3回、この主婦たちとは会いました。

それぞれ、犬を飼っていらして、

散歩に来られるのです。

3人の飼い犬はシーズー。一人はマルチーズ。

ここでも、サニーは大人気。

4人の方は毎日、

いつも決まった時間に集まって、

話をしているのですが、

サニーはこの4人の主婦を見かけると、

ひとりずつ順番に挨拶をします。

「サニーちゃん、皆に、挨拶するのね、えらいわあ！」

一通り挨拶をした後、もう一度、

この人この人・・・というように、

再度、挨拶を繰り返します・・・
いつもいつも必ず

そういうことをしております。

「サニーちゃん、よしよし」

皆に愛され、

すっかり人気者のサニー・・・なのでした。

⑦ 40歳くらいのおじさん

この方もサニーをととても愛していただきました。

やさしく目立たない方でしたので、私の方からは、
見逃してしまいうことも多かったのですが、

そんなときも、この男性は自分から

「サニーちゃんだ」と声をかけてくれました。

この方は、ときどき

自分の犬の散歩もしておりました。

雑種の犬で、私はこの犬が大好きでした。

この方ともハスキー系雑種犬とも、

もう会えなくなる・・・

こう思うととても悲しいですね。

⑧ 60歳くらいの明るいおばさん

この方は小さな雑種をいつも連れておりました。
この雑種が、サニーのことが好きで、
いつも追い掛け回しておりました。

このおばさんは、気風が良くて美人。
私と同じ北海道出身ということで、
いつも、いろいろな話をしました。
この方の家も訪ねたことがあります。

サニーのことを愛してくれた一人です。

⑨ **65**歳くらいのおじさん

この方も雑種の犬を飼っておられました。

その犬は無骨なオスだったので、

サニーの顔を見るといつも、

「やっぱり女の子の顔をしているな・・・

かわいいよなあ」

とため息を漏らすように、

頭をなでてくれるのでした。

私もこの方の雑種が大好きでした。

ものすごく力の強い中型犬で、

毛色は黒く、いかにも野生犬という感じでした。

⑩ 聾啞の65歳くらいのおじさん

この方は口を聞けず、耳も不自由でした。

ただ、アーアー言いながら、いつもサニーを撫でてくれました。

サニーはどんな人にも分け隔てをしませんので、

この方は、大喜び。

ある日などは、

何百メートルもずっと

サニーを追いかけてきました。

そして追いつくと、身振り手振りで

自分がいかにサニーを愛しているかを、

飽きずに、アーアーアーと話すのでした・・・

・・・こういう話は、無数にありました。

初めて会う多くの人も、

サニーを心から愛してくれました・・・

道を歩く小学生や若い女性から、何度

「あ、可愛い犬だ！」

と言われたことでしょう！

サニーは無数の人に愛されていたんだな・・・
つくづく思います。

そしてまた、驚くべきことに、サニーは一度会った人や犬を全部覚えていたので、すごい記憶力でした。

私もサニーのおかげで、

ある日気がつくと、

自然と60頭くらいの犬の名前を覚えることができました。

一つ一つが全部いい思い出です。

ありがとうございます。

本当にサニーには

頭が下がる思いがいたします。

サニーが教えてくれたこと

これまで私はいろいろな人から、たくさんのお話を学びました。

それは現在生きている方々であり、また物故された芸術家や思想家たちです。

未熟な私に教えていただき、
ありがとうございます。

深く感謝したいと思います。

しかし・・・ふと立ち止まって考えてみると、

私が人生について、最も多くのことを学んだのは、

サニーからであった・・・と思わざるをえません。

釈迦やイエスキリスト、

そしてムハンマド（マホメット）からではなく、

モーツアルトやヴィヴァルディや

レーピンやダヴィンチからでもなく、

また、お世話になった恩師たちや両親からでもなく、

愛犬サニーから、

最も多くのことを学んだという事実は、

否定しようもない真実でした。

サニーから学んだことの最大のもの、

「平凡であることのすばらしさ」です。

もし人間や宇宙を肯定するのであれば、

それは「生」そのものを肯定しなければなりません。

「成功」や「業績」ではなく、

「お金」でも「名誉」でもなく、

ただ「今生きていること」、

この事実をまず第一に

すばらしいと思わなければいけません。

その事実気付いた時、

この世から戦争はなくなり、

また憎しみさえも消え去ることでしょう。

私はサニーという魂を愛していることに気づきます。

しかし、ことさら、

彼女が何かをしたというわけではありません。

音楽を作ったわけでもなく、

小説を書いたわけでもありません。

スプーン一個作ったわけでもなく、

パンを一つ焼いたわけでもありません。

ただ彼女は生きていた・・・

そのしぐさや、意志が、

私の心を強く強く引きつけました。

彼女は自然と万人を愛していたし、

他の犬たちに深い興味を示しました。

虫を追いかけて、

心のままに草や土を食べたりしていました。

そういう一つ一つの出来事は、

何の意味もないようでも、

実はこれほど大きな意味を持っていたものは、

私の人生には、今まで、ありませんでした。

きつと、これからもないでしょう。

憎しみは幻想だと思えます。

なぜなら、**3歳**の子供は

自分の母親を憎むことができるでしょうか？

もし自分が崖から落ちそうになっている時

・・・私たちは、どんな死刑囚にも、

ヒトラーやスターリンや大久保清や加藤智大にも、

助けを求めるのではないのでしょうか？

宗教ごときもので、

民族の違いごときもので、

仲違いするなど、

馬鹿げています。

聖書やコーランや仏教経典のどこに、

戦争をせよと書いてあるのでしょうか？

・・・こういうことを、すべて教えてくれたのは、

1万冊読んだ本からではなく、

名曲や名画からでもなく、

生きている人間からでもなく、

宗教の教祖様からでもなく、

サニーという一個の犬からであった・・・
という事実・・・

これは、間違いのない真実なのです。

現在、私は平凡に生き、

平凡に死にたいと思っております。

それが最もすばらしい生の形だと思っております。

ケンカなんかバカバカしい。

他人を憎むなんてバカバカしい。

栄誉なんていらぬ。

そういうことを教えてくれたサニー、

本当に、ありがとう、サニー！

あなたは、やっぱり、偉大でした。
私の教祖さまでした。

(もぎる)



